

11. 生涯・キャリア教育委員会^{*1}

清水 貴子^{*2}（委員長・聖隷福祉事業団）

本委員会は18期「生涯教育」と「女性医師キャリア支援」の二つの委員会が統合されて、2016年から活動を開始した。初年度は両委員会の成果を振り返ることと並行して、医師としてのキャリアの意味について議論を重ねた。

医師が、生涯にわたって学習しつつキャリアを継続し自己実現を目指すことは、プロフェッショナルとして必要な能力とされているが、現実的には様々な理由でキャリアを継続できない場合もある。逆に近年はキャリア選択の自由が強調された結果、医師免許を得ても医業を行わない選択をする場合もあるが、本委員会では医業を生業とする医師のキャリア教育を検討の対象とすることとした。また医師としてのキャリアを考える際には、医師集団が社会に対して契約しているプロフェッショナリズムに基づいて個人のキャリアを考える、ということを共通認識とした。

さらに、昨今のキャリア論では組織の管理者が

多様性を理解し重んじることが重要とされていることから、プロフェッションである医師がdiversity managementを重視して自らのキャリアを形成するための手法を構築することとした。今後は将来医師になろうとするもの、また医師であるものが、キャリアを継続するために必要な資質を獲得できるようなプログラムを検討し、少なくともキャリアを継続したいと願う人にとっては、可能な限り継続できるような仕組みを構築する必要がある。課題として、実践的なキャリアデザインコースのワークショップを組み立てて実施すること、学生や研修医のキャリアデザインを相談できるセッションを学会会期中に運営すること、などを計画している。

副委員長：和泉俊一郎、委員：泉美貴、賀来敦、榊原秀也、野村英樹、蓮沼直子

^{*1} Continuing Career and Professional Development Committee

^{*2} Takako Shimizu

12. 地域医療教育委員会^{*1}

藤本 眞一^{*2}（委員長・奈良県立医科大学）

1. 地域医療教育委員会小委員会

日時：2016年10月26日

出席者：藤本眞一（奈良県立医科大学）、前田隆浩（長崎大学）、オブザーバー小屋松淳（長崎大学）

場所：奈良県立医科大学教育開発センター
以下の2点について話し合った。

1) 委員会での地域枠の今後に関する講演会開催について

どちらかの大学の地域医療に関する講演会での共催、地域医療教育協議会場で共催などの案があったが、いずれも不適切、困難であることがわかった。

そこで、委員会のメンバーと地域医療教育協議会の世話人その関係者による30名程度の参加者による小講演会を、2018年3月の土日、京都で開催する方向で検討することとした。

演者には、①松本正俊先生：地域枠学生の cohort 研究 (BMJ の論文の内容)、②前野先生：文科省との委託研究の成果、③前田隆浩先生、小屋松淳先生：協議会の調査結果について、が挙げられた。

2) 2018年日本医学教育学会大会でのシンポジウム開催の提案

(仮題) 地域枠の今後 - (どちらかというと) 政策的な面から -

3) AJMC の調査：岩手医大小林誠一先生

4) 文部科学省高等教育局医学教育課企画官：佐々木昌弘先生

5) 厚労省関係者

6) 長崎大学片峰茂学長：医師の需給に関する分科会委員長

2. 平成29年3月18日委員会と講演会開催 京都テルサにおいて

委員会参加者：岡崎仁昭、前田隆浩、前野哲博、高田清式、井口清太郎、川邊哲也、松本正俊の7名

講演会参加者：上記7名の委員の他に、周藤俊治 (奈良県立医科大学)、村上啓雄 (岐阜大学) の2名

委員会議事

1) 2017年日本医学教育学会大会シンポジウムについて

「地域枠の今後」でシンポジウム開催予定

趣旨：地域枠の今後

医師需給の観点から、また医師の偏在の解消の

観点から、地域医療再生策の一つとして平成20年に「地域枠」制度が開始され、10年が経過し、これらの学生の卒業が続いている。その一方では、医学部定員増によって、将来、医師数の過剰が見込まれると予測する報告もある。このような状況下において、地域医療再生のための施策として期待された「地域枠」であるが、①果たしてこれまで有効に機能してきたのか、②今後、継続するべきであるのか、③継続する場合はどのような変更が必要なのかといった問題を整理すべき時点に來ていると考えられる。この問題は、特に地方大学において、焦眉の急となっている。そこで、今回のシンポジウムでは、この点に関連会議等の関係者を交えて討論することにしたいと考えている。

演者：中俣和幸 (鹿児島県福祉保健部次長)、前田隆浩 (長崎大学医学部教授)、権丈善一 (慶應義塾大学商学部)、佐々木昌弘 (文部科学省高等教育局医学教育課企画官)

2) 本年の活動について

予算申請等の説明

3) その他

地域枠からの離脱者対応に関する Q & A の作成の提案があった。

3. 平成29年8月18日 第49回日本医学教育学会大会 (札幌)

委員会参加者：藤本眞一、岡崎仁昭、前田隆浩、前野哲博、高田清式、井口清太郎、川邊哲也、松本正俊

1) シンポジウム「地域枠の今後」について反省会

概ね、良かったとする意見が多数あり、毎年実施してはどうかとの意見もあった。特に、権丈先生の社会学的意見が良かったとする意見があった。

2) 今年度後半のテーマについて

地域医療学の教科書作成について検討する。地域医療教育協議会と共同での執筆を検討することで合意が得られた。

副委員長：岡崎仁昭、委員：前多隆浩、前野哲博、高田清武、竹村洋典、井口清太郎、松本正